



PTAだより

白根高校 令和5年11月21日発行(第98号)



令和5年度 第72回 全国高P連宮城大会に参加して

PTA会長 吉澤 茂樹

八月二十五日、二十六日の二日間、カメイアリーナをメイン会場に第七十二回全国高P連宮城大会が開催されました。

一日目は、仙台市内六会場にて分科会が開かれ私は仙台サンプラザホールを会場にいのちと希望を未来につなぐコミュニティの光をテーマに、防災・減災教育の講演とパネルディスカッションに参加してきました。

東日本大震災から時間が経ち、東北で被害にあった方々のその後の生活や震災の経験を忘れないための方法や努力を軸に講演は進んでいきました。途中でクイズがあったり、参加者に意見を聞いたり、悲惨な経験談などにより暗くなりがちなテーマの中、時には会場が笑いに包まれるといった場面もありました。

私自身も東日本大震災の時には、災害支援や復興支援に福島や仙台には何度も来ていたので当時のことを思い出さずにはいられませんでした。

講演が終わり、その後パネルディスカッションになりました。司会の方がいてその他三人パネリストが壇上に上がりました。当時教員、当時小学生で今は高校生の方、当時高校生の保護者です。当時の実体験をそれぞれの立場で写真を交え話されとても勉強になりました。

二日目の全大会は大きな会場にほぼ満席で立ち見になってしまう参加者もいました。開会式の後、表彰式となりその中で我が校、前PTA会長の金丸正さんが表彰され、壇上での賞状の授与はなかったのですが、スクリーンにはその名前が映し出されて感動しました。

開会式終了後、記念講演として昨年夏の甲子園高校野球大会を優勝に導いた、仙台育英高校の須江航監督の講演が行われました。今年は優勝できず惜しくも連覇とはなりませんでしたが、この高P連全国大会前日が決勝戦だったので私たちが仙台に着き気がつくとも仙台南や駅など異様な雰囲気にも包まれていました。講演の内容もとても素晴らしく、地味で目立たない選手時代を経て、東北一の名将になる軌跡をととても分かり易く熱意が伝わってくる講演でした。

今回の全国大会に参加して、震災の経験を生かして避難方法や食料や水等の配給方法を学びアップデートしたことで、熊本の震災等に生かされ命を救われた人たちがいると改めて知り学び尊いと感じました。

震災から半年ほど経ち、初めて仙台に来たとき聞いた「松尾芭蕉が見たあの風景はもう二度と見られないですよ」の言葉を思い出して改めて自分に何ができるのかを考える貴重な時間になりました。

「着物に割烹着のおばちゃんです。」

1年 古屋 美香

娘の高校生活と一緒に楽しもう！

行事には前のめりで参加しよう！

娘が何も言わないのをいいことに密かに決めていました。その第一弾が役員になること。そして、次のチャンスがおやじ焼きそばでした。なんと素敵なネーミング。うきうきして着物に割烹着で参加させて頂きました。

まず初めに保護者のチームワークに敬服いたしました。初めましての方も多であろう中、自然と役割分担ができテキパキと作業を進める姿は今まで培ってきた主婦力、人間力の賜物。いざ販売が始まって戸惑うことなく動く姿に感動しつつ、どの生徒も皆、笑顔で買いに来ている姿により楽しく学校生活がおくれているのだろうと安堵し嬉しさをしみじみとかみしめました。

とても良い経験と時間を過ごせました。

保護者の参加を許可して下さった先生方に感謝致します。今後も親子共々良き経験のできる高校生活であることを願いそのお手伝いができたらと思います。参加させて頂きありがとうございました。



令和5年度 第69回関東高P連 栃木大会に参加して

メインテーマ「未来を描き、切り拓いていこうとする

子どもたちをはぐくむために」

校長 伊藤 裕之

夏の始まりを感じさせる7月7日(金)、山梨県内の各高校から、PTA役員の皆様と総勢70人ほどで、関東高P連栃木大会に出席しました。本校からは吉澤PTA会長様と私が参加しました。初日の7日は宇都宮市のマロニエプラザにて全体会が開催され、栃木県立宇都宮北高校吹奏楽部のオープニングコンサートに続き、開会式、表彰式、大会宣言文採択がおこなわれました。記念講演会は、女性で初の樹木医となった「はままつフラワーパーク」理事長・塚本こなみ氏による「花みどりの力」という題で、花やみどりは人を元気にする不思議な力があることや、生涯を通じて信念を持ってあきらめずに仕事に取り組むことの大切さについて貴重な体験談を聴くことができました。夜は山梨県のPTA役員の方々と楽しい懇親会をおこない、お互い自己紹介をしたり学校の情報交換をして大変楽しいひと時を過ごしました。

2日目の8日は、日光市鬼怒川へバスで異動し、各会場に分かれて分科会をおこないました。吉澤PTA会長様と私は第一分科会「学校教育とPTA」に参加し、本県の農林高校と神奈川県立伊勢原高校の発表を聞きました。農林高校は「生徒の夢実現に向けたPTAと学校との協働体制」のテーマのもと各学科の行事へのPTA協力や、学校行事である収穫祭、地区の伝統野菜「八幡芋」を活用した地域交流活動について発表がありました。農林高校はPTAに同窓生も多く大変協力的であるというお話も聞きました。

伊勢原高校は「私たちができるSDGs」のテーマのもと、PTA委員の選出方法や、PTAや生徒会が主体となってカンボジアへの上履き、筆記用具などの支援物資の発送についての報告がありました。この海外支援活動は以前から続いており、カンボジアの子どもたちが勉強に必要な文房具も足りないという話を聞き、生徒・保護者・教員で始まったそうです。

楽しく充実した二日間の日程は瞬く間に終了し、日光市でお土産を買って帰路に着きました。宇都宮のぎょうざや、鬼怒川の温泉を堪能することはできませんでしたが、他校との情報交換や活動の状況を聞くことができ、とても有意義な研修となりました。また、山梨県のPTA活動は他県に比べて、とてもよい雰囲気や運営されていることをあらためて実感しました。来年は千葉県幕張で開催されるそうです。



オヤジ焼きそばに参加して

篠原 涼子

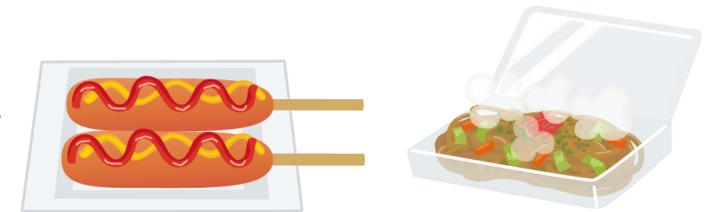
娘が在学中に一度は参加したかったこの「オヤジ焼きそば」。『オヤジ』とあるだけに、お父様方しか参加出来ないのかと思いきや、お母様方の参加も可能と分かり、遂に参加が実現した。とはいえ、初参加、慣れている方々に見よう見まね。当日はあいにくの雨で肌寒い感じ。

しかし焼きそばを焼くお父様方は暑く、そして、熱かった。

下準備から細々と動くお母様方は、焼き上がった焼きそばのパック詰め、販売を、気持ちを入れて。まだかなあと様子を見に来る男子生徒、香りに誘われて笑顔で寄ってくる女子生徒。そして沢山食べてねと一生懸命に腕を振るうお父さん。美味しいよと太鼓判のお母さん。

皆がとても楽しみにしていたのだと感じた。

少しずつ前進していこうと活動に励むPTA。 その一つである、この、暑くて、熱い「オヤジ焼きそば」今後も楽しみ。



編集後記

子どもを迎えに行き南に進行方向を変えると、見慣れたはずの富士山の眺めにいつでも新鮮な感動を覚えます。白根高校の誇りのひとつと言ってもいい、美しい景色です。コロナが5類に移行し半年。元に戻りつつあること、新しく形を変えたことなど様々ですが、高校時代にしか味わえない経験を通し、子どもたちの毎日が充実したものなることを願っています。

今回のPTAだより発行にご協力頂いた皆様、ありがとうございました。

企画広報委員 小林 昭子